

福祉文教常任委員会 説明資料

令和6年11月18日

学校教育施設の整備について

資 料

学校教育施設整備の進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～7

中学校給食の進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～4

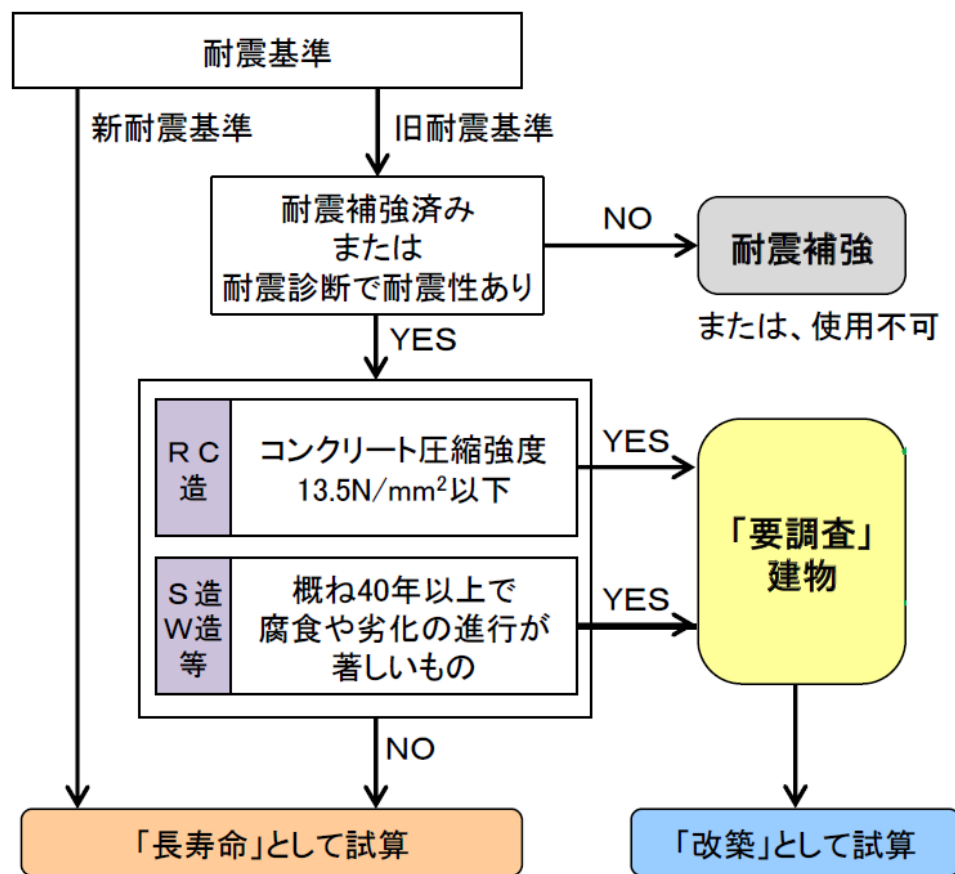
大磯町学校教育施設整備基本構想《概要版》・・・・・・・・ 1

議 会 事 務 局

学校教育施設整備の進捗状況

大磯町教育施設等長寿命化計画を策定（令和3年）

◎ 構造躯体の健全性から、改修等の優先順位を決める



出典：大磯町教育施設等長寿命化計画（令和3年6月）より

◎ 「改築」が必要な施設 ⇒ 大磯中学校 1号館

- RC造 コンクリート圧縮強度が12.3N/mm²（基準値以下）
- 「要調査」建物となり、「改築」が望ましいと判定
- 築64年経過

◎ 「長寿命化」する施設 ⇒ 老朽化は進行

- 2号館は築59年経過
- 体育館は築58年経過
- 3号館は築40年経過

◎ 「新設」を検討

- 給食施設は、自校方式で新設することが決定している

大磯町立小中学校一覧

築年数はR6.4.1時点
建築月は建物により異なる

施設名	建物名	建築年			階数	構造	延床面積	備考
		西暦	和暦	築年数	※		(㎡)	
大磯 小学校	本館	2000	H12	24	3	R C造	2,434	
	南校舎	1999	H11	25	3	R C造	2,100	
	中校舎	1985	S60	38	3	R C造	2,148	
	西校舎	1986	S61	38	3	R C造	510	
	ホール前室	2000	H12	24	3	S造	133	
	給食調理室	1987	S62	37	1	R C造	312	
	体育館	1975	S50	48	2(1)	R C造	1,493	
	外トイレ・倉庫	2000	H12	24	1	R C造	16	
国府 小学校	南校舎	1991	H3	32	3	R C造	2,989	
	北校舎	1992	H4	32	3	R C造	3,579	
	昇降口	1992	H4	32	3	R C造	714	
	体育館	1997	H9	27	2	R C造	1,794	
	プール	2012	H24	11	1	R C造	244	管理棟
大磯 中学校	1号館	1960	S35	64	3	R C造	1,062	
	2号館	1965	S40	59	3	R C造	1,512	
	3号館	1983	S58	40	3	R C造	3,180	
	昇降口	1965	S40	59	2	R C造	131	
	体育館	1965	S40	58	1(1)	S造	1,191	
	部室棟	1996	H8	28	1	R C造	305	
国府 中学校	A棟	1980	S55	44	3	R C造	3,201	
	B棟	1980	S55	44	3	R C造	2,009	
	体育館	1982	S57	42	2	R C造	1,525	
	部室棟	1995	H7	28	1	S造	109	

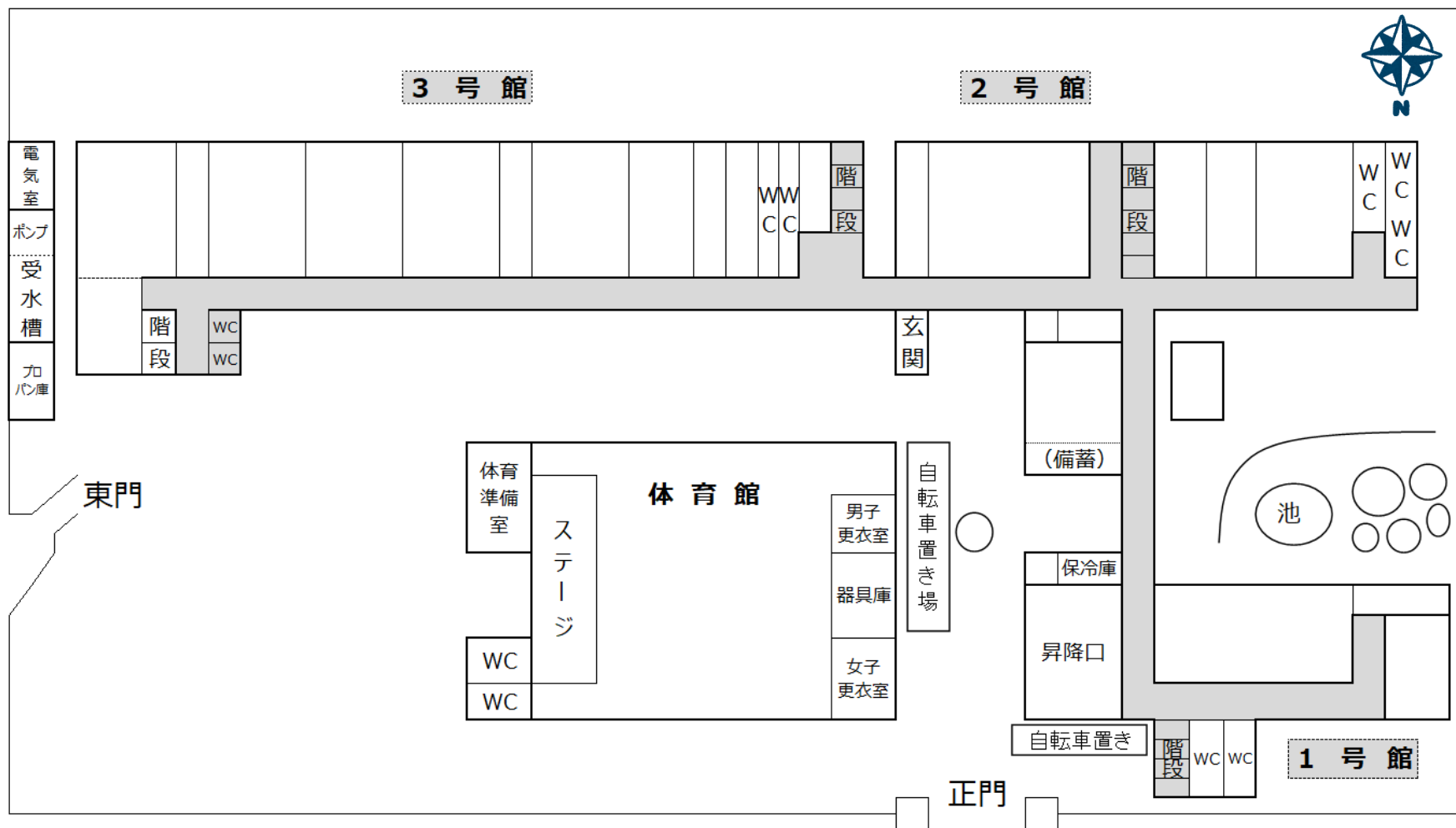
※ () は地下の階数

大磯中学校全景



出典: 政策課資料「おいそオンラインマップ(大磯町統合型GIS)」

大磯中学校校舎配置図（略図）



※建物(棟・号館)は連結している。

出典: 学校教育課資料

大磯中学校の今後の整備に向けた整理事項

すべての建物を整備対象に含めて整理

- 1号館だけを建替えすれば良いのか？
 - 2号館及び体育館は、1号館と約5年しか築年数が変わらない。
 - 1号館と2号館、2号館と3号館は建物がつながっている。
 - 給食施設を校地内に建設する場合、設置場所が限られる。
- ➡ 更地にして一体的に整備する可能性に言及したもので、提案にまでは至っていない。



耐力度調査により躯体の状態を把握

- 改築が望ましい施設か、長寿命化できる施設か。柱のコンクリート中性化や鉄筋の腐食度などを調査し、躯体の状態(劣化状況・健全性)を把握する。
 - 国庫補助(学校施設環境改善交付金)を活用する際は、耐力度調査を行っておく必要がある。
 - 市町村教育委員会に一級建築士資格を有する者がいない場合は、委託により実施できる。
- ➡ 令和5年12月補正では、アドバイザー業務委託料を計上した。その中で、耐力度調査を行い、結果を踏まえた整備の方向性の議論、建替・改修整備の設計図(案)を作成し、DB(設計・施工一括発注)事業者の選定までを行う予定であった。

町立小中学校 4 校のロードマップ

「中学校給食の関係もあるため、大磯中学校と合わせて国府中学校も検討したほうがよい。」
 「小学校同士も同時期に検討したほうがよい。」
 といった意見もいただいております、今後の見直しを検討。

	前期（2023～2032）	後期（2033～2042）
大磯中学校	建替・新築	
国府中学校	← 長寿命化 改修・ 新築	
国府小学校		長寿命化 改修
大磯小学校		← 長寿命化 改修

出典：大磯町学校教育施設整備基本構想

今後の学校教育施設の整備

ニーズの把握

- 生徒が求めるものは？
 - 保護者が求めるものは？
 - その他、学校施設を利用する方々が求めるものは？
- 教職員が求めるものは？



建替え・長寿命化改修

- 大磯町学校教育施設整備基本構想(令和5年)のロードマップに基づき、4校の整備を検討。
- 大磯町公共施設等総合管理計画(令和4年改訂)に基づき、部局横断的な視点で、学校教育施設の整備時期を検討する必要がある。

設備改修

- 特別教室及び体育館(小学校のみ)への空調設備を整備。
- 大磯小学校のトイレ設備を全面改修。
- いずれも国庫補助を得るため、設計委託を経て工事施工(買取設置)を行う手続きにより、実施には最低2か年がかかる。



国府小学校体育館

大磯小学校トイレ

中学校給食自校方式への経過

大磯町立中学校給食検討会

- 平成31年 2 月 5 日
- 教育長へ結果報告
- 町立中学校給食の望ましい実施方式は自校式である

平成30年度大磯町 教育委員会第11回定例会

- 平成31年 2 月21日
- 議案第23号大磯町立中学校給食について
- 大磯町立中学校給食は自校方式とする

平成30年度 第12回大磯町政策会議

- 中学校給食について
- 中学校給食の実施方式は自校方式とする
- 協議終了

給食方式別の経費比較

(大磯町中学校給食実施調査報告書 抜粋)

実施方式	整備項目	初期費用A (千円)	維持管理運営費 (単年)B (千円)	国庫補助C (千円)	総額(30年) $A+(B*30)-C$ (千円)
自校方式 S造 国府、大磯C案 900食	調理室、EV、備 品・食器、造成費	573,357	81,475	16,800	3,000,807
センター方式 S造 中学 900食	建設用地、調理 場、配送車、EV、 備品・食器、配 送・配膳費	775,539	161,469	13,800	5,605,809
兄弟方式 S造 900食	解体、調理室、 EV、備品・食器、 昇降口、配送・配 膳費	1,150,704	86,415	54,050	3,689,104

大磯町学校教育施設整備基本構想における 中学校給食の自校方式

《第6章学校教育施設整備の進め方:抜粋》

・大磯中学校

築60年近い施設については、物理的耐用年数を経過している設備の更新(改修)が必要であるが、バリアフリー設備や給食施設の新設などの社会的要請に対応するには、機能的耐用年数の側面から既存施設の改修では十分とは言えず、一体的な整備を行う。

・国府中学校

給食施設の新設などの社会的要請に対応していく。

大磯中PTAからご提案をいただきました

《保護者との話し合いを通して》

- ・週1日でもお母さんが休める日が欲しい
- ・基本は選択制だが、週に1日程度は全員で同じものを食べる
- ・申し込みやキャンセルが当日にできるようにして欲しい
- ・支払方法の選択肢を増やして欲しい

大磯町学校教育施設整備基本構想《概要版》令和5年11月

1. 大磯町学校教育施設整備基本構想策定の目的

「大磯町学校教育施設整備基本構想(以下、「基本構想」という。)」は、「大磯ならではの教育とは何か」、中学校給食の在り方等も含め、求められる「学校教育施設の在り方」を検討し、大磯町立の小中学校4校の整備内容及び時期を具体的に決定していくことを目的に策定しました。

2. 学校教育施設の目指すべき姿

未来志向で実空間の価値を捉え、学校教育施設全体を学びの場として創造することを目的とし、右に示す5つの視点から学校教育施設の目指すべき姿を定め、大磯町教育大綱の基本理念である「子育て・教育でみんながわくわくするまち おおいそ」につなげます。



図 学校教育施設の目指すべき姿

3. 学校教育施設における課題と対応の在り方

学校教育施設整備の現状やまちが目指す方向性を踏まえ、6つの視点から課題と対応の在り方を示します。

安全・安心、老朽化への対応 安全性の確保や防災機能の向上を図ります	望ましい規模・配置 学習環境等を踏まえた望ましい規模・配置を実施します	教育環境の充実 子どもや先生がわくわくする空間を創出します
社会的要請への対応 地域の人々がわくわくする空間を創出します	健全な財政の維持 全庁横断的な検討体制を構築していきます	持続可能な運営・維持管理 民間活力の導入による運営・維持管理体制を構築していきます

将来の整備イメージ



多様な活動ができる空調設備のある体育館



学習活動に柔軟に対応できる多目的な空間



多様な学習活動が展開できる空間



安全・安心な教育環境、地域コミュニティの拠点



読書・学習・情報のセンターとなる図書館



太陽光発電設備を導入し、環境教育に活用

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」(令和4年3月)

4. 学校教育施設の望ましい規模・配置の考え方

(1) 望ましい学級数の考え方

小中学校の学級数は、学校教育法施行規則により標準の学級数が定められていますが、今後小学校において35人以下学級による編成を基本としていくこと、中長期的には町内の年少人口が減少していく見通しであることなどを考慮し、本町における学校の望ましい規模の範囲は以下のとおりとします。

小学校	18～24 学級程度 (1 学年当たり 3～4 学級程度)
中学校	9～12 学級程度 (1 学年当たり 3～4 学級程度)

(2) 望ましい通学距離・時間の範囲の考え方

本町では現在の大磯と国府の学区を維持していくことを基本に、現在の小中学校の配置を適当と考え、維持していくこととします。

5. 学校教育施設の整備の方向性

「大磯町教育施設等長寿命化計画」(令和3年6月)に基づき、計画的に学校教育施設の整備に取り組みます。

目標使用年数	・ 計画的な保全整備により、物理的耐用年数にできる限り近づけることを目指し、躯体が健全な施設(長寿命化施設)は原則として80年を目安として使用します。
改修・改築周期	・ 長寿命化施設は、建築年度を基準に大規模修繕や長寿命化改修を 20 年周期で実施することで、目標使用年数の80年まで確保します。
優先順位	・ 建物の状態や安全性、学校教育施設が果たしている役割など、対策に当たって考慮すべき視点を踏まえ、以下に示す優先順位の方向性を定めています。 優先順位 1 構造躯体の健全性を確保 優先順位 2 長寿命化を図る上で重要な部位の予防的な改修工事 優先順位 3 利用者へ与える影響が大きい部位の改修工事 優先順位 4 非常時における役割 優先順位 5 「存続」する施設

6. 学校教育施設整備の進め方

大磯町立の小中学校4校の整備内容及び時期を具体的に整理したロードマップを示します。

計画期間は、前期を本基本構想策定後の2023年度から2032年度までの10年間、後期を2033年度から2042年度までの10年間とします。

表 個別施設の整備に関するロードマップ

	前期 (2023～2032)	後期 (2033～2042)	備考
大磯中学校	建替・新築		1号館は、構造躯体の健全性の観点から長寿命化改修に適さない施設として改築(建替)を行う。その他の施設についても、バリアフリー設備や給食施設の新設などの社会的要請に対応するため、一体的な整備を行う。
国府中学校	長寿命化改修・新築		生徒数をこのまま維持し、個別最適な教育を図るため、既存施設の改修を行う。給食施設の新設などの社会的要請に対応していく。
国府小学校		長寿命化改修	児童数をこのまま維持し、個別最適な教育を図るため、既存施設の改修を行う。
大磯小学校		長寿命化改修	児童数をこのまま維持し、個別最適な教育を図るため、既存施設の改修を行う。